

～2011浅間山ロープレイング方式防災訓練を実施～

<実施目的>

浅間山噴火に伴う火山災害を最小限に抑えるためには、平常時からの危機管理対応や関係機関との連携が重要となっています。2004年9月の噴火では、情報伝達が不十分であった事により交通規制等に混乱をきたしました。このため、各機関の防災対応の確認及び情報共有の強化を目的としたロープレイング訓練（図上訓練）を実施するものです。

防災訓練のシナリオ

- ①訓練実施前の状況
 - 浅間山の状況
 - ・火口周辺警報（噴火警戒レベル3）、入山規制
- ②訓練開始
 - 訓練開始時、傾斜計に山上がりの変動、火山性地震増加、GPS基線長伸長
 - 14時05分 中規模噴火発生、爆発音
噴火警戒レベル4引き上げ、避難準備
 - 14時50分 融雪型火山泥流発生
 - 15時00分 噴火警戒レベル5引き上げ、避難
 - 15時10分 融雪型火山泥流、降灰による被害が群馬県内において発生。
 - 16時00分 訓練終了

訓練日：平成23年2月25日（金）
14時～16時

訓練場所：利根川水系砂防事務所

参加機関

- ・嬭恋村・長野原町・小諸市・佐久市
- ・軽井沢町・御代田町・警察・消防
- ・群馬県・長野県・陸上自衛隊・気象台
- ・利根川水系砂防事務所 等 約25機関

参加人数：130名

プレイヤー訓練風景（事務所地下車庫）



コントローラー訓練風景（事務所2F防災対策室）

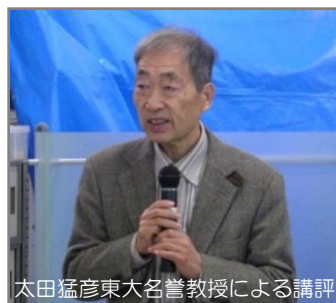


ロープレイング方式訓練とは？

防災訓練には実動型と図上型があり、ロープレイング方式防災訓練は、図上型の訓練になります。コントローラー（訓練計画者）、プレイヤー（訓練を受ける者）、評価者に分け、コントローラーの立てたシナリオに沿って、プレイヤーが ①状況把握 ②検討・判断 ③意思決定 ④対応行動を机上で行う訓練です。



後藤宏二事務所長による講評



太田猛彦東大名誉教授による講評



荒牧重雄東大名誉教授による講評